



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 8 月第 3 例会 (2011.8.23) No.2909

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

(2) 佐藤 紳一 会長挨拶

「ポリオ撲滅へ」

日本の外務省が ODA の一環としてゲイツ財団と協力しパキスタンのポリオ予防接種に資金を提供することになり、この事業に対して日本政府が約 50 億円の借款を供与。パキスタン政府が予防接種事業を着実に実施すれば「ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団」がパキスタン政府に代わって日本政府に返済するというもので、このような小さな紙面記事に目がいくようになったことは、私も少しはロータリアンに近づいたのかと思いました。

また、8 月 18 日付ニュースに福島第 1 原発吉田所長の動画が放送されました。彼は浪江ロータリークラブのロータリアンです。人間の極限、限界ギリギリの状態で修復作業に取り組みでいるのが、画面から良くわかりました。「あきらめるな」と声を掛け手を引っ張ってやりたい気持ちです。

福島の裏磐梯ネコマスキー場のホームページに 2011～2012 年シーズンパスの販売告知がはじまりました。「福島は元気だぞー!」「あきらめないぞー!」と聞こえてきます。

今シーズンは福島のスキー場にも行き元気を与えてみてはどうでしょうか。帰りに東北人の粘り腰をもらってきたいです。

9 月は「新世代の為の月間」です。各テーブルで話題とし話し合ってください。新世代奉仕はクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕に続く第 5 の奉仕として承認されました。「新世代」について何ができるのか?何をしなければいけないのか?考えてみたいと思います。後で新世代委員長高橋さんからお話をいただきます。

8 月 9 日例会時に夏野菜について話しましたが、イタリヤ軒さんのご好意により「ラタトゥーユ」を作ってくださいました。全体的に食事の量が可愛くなっていますが、美味しくいただければと思います。

(3) 委員会報告

・徳永 昭輝君へ米山奨学会第 16 回メジャードナー感謝状贈呈

・細野社会奉仕委員長より交通遺児の為の梨葡萄狩りのご案内: 9 月 10 日 中村観光果樹園(旧白根市) 10 時 30 分新潟駅南口出発 15 時頃帰着予定

(4) 幹事報告(高橋 秀松 幹事)

・例会後、二次会参加ご希望の方は、2 階ローザで会費 2000 円です。

・9 月 14 日 新潟南 RC が 7:15～8:15 オークラホテルに於いて早朝例会を開催致します。メーキャップご希望の方は事前に事務局へお知らせ願います。

(5) 新世代奉仕月間について自由討論

・高橋 清文新世代奉仕委員長より RA, IA, RYL A について説明

・若槻 良宏 IA 委員長より新潟明訓高校インターアクトクラブの現状と問題提起(ご本人、ケガにより欠席につき、高橋大委員長代読)

・笠井 明 RA 副委員長より新潟 RA の活動状況と会員増強のお願い。

- ・関川 博信ライラ委員長よりライラの説明
- ・全員でテーブル毎に「新世代奉仕」について自由討論

8月30日の例会予定 会員スピーチ

「私は何故ロータリークラブに出戻ったか？」

新潟医療福祉大学学長 山本 正治君

コ ラ ム

「第2560地区「群馬・新潟」ロータリアン山の会」

＝錦秋の尾瀬ヶ原・至仏山の山旅＝

小柳 実

6月に入って広報委員会から週報への原稿の依頼頂きました。寄稿のための題材を考えていた時に例会で<ロータリーの友6月号>を見ました、表紙に白旗史朗氏撮影の尾瀬ヶ原と名峰至仏山が載ったこの写真を見て群馬・新潟ロータリアンの親善を目的に始まったロータリアン山の会で参加した尾瀬・至仏山の山旅のことを書いてみようと思いました。第2560地区が群馬新潟の二つの県で構成されていた栗山ガバナ一年度の時に両県の親睦を目的に有志が集まって山の会が誕生したと聞いていました。

さて、私は登山が特別に好きというほどではありませんが尾瀬沼の自然が大好きでこれまでに4回訪れています、春の水芭蕉、夏のニッコウキスゲ秋の草紅葉、朝晩の素晴らしい景観いろんなコースにおける自然・植物とどれをとっても日本に二つと無い貴重な自然と環境だと思います。そんな中で尾瀬ヶ原を見下ろしているのが至仏山です。この山は自然と植物の宝庫ともいわれています。その美しい山が近年山頂から山の鼻にかけての登山道が踏み荒らされ登山道周辺の自然が大きく損傷し数年間登山が禁止されていました、登山道の木道階段などの整備が行われ漸く平成10年から登山の再開が始まりました。ロータリアン山の会がこれを機に翌年の平成11年10月1日～2日に実施する案内がありました。一度登りたい山でしたので女房と一緒に参加申し込みをいたしました。

この時の参加者は群馬県から20名新潟県は22名計42名の多勢の参加でした、尾瀬沼。至仏山への人気の高いことの証です。

私に大きな誤算がありました、女房を登山に連れ出したことです。尾瀬の入り口鳩待峠(至仏山)の登山口から至仏山頂上まで標高差630mこの標高差が判断を誤らせました標高差だけなら弥彦山と大差ないのであると思ってしまったことにあります、至仏山は標高2228mの高山です森林限界が存在する山です。当日は曇りで頂上近くでは雨となりガスが一面に立ち込め視界は10m位と思われるほど先の見えない登りが続いた。結果と

して私たちにとって良かったのかも、もし視界が良かったら足が竦んで動けなかったかも知れません。

そんな二人で頂上に辿り着いたのはグループから相当に遅れていてしまいました。それでも二人で励ましながら元気で下山に向かった、山道は至仏山独特の蛇紋岩であいにくの雨で滑りやすく一步一步気を付けながら下って行った、悪いことに秋の日暮れは釣べ落としに迫ってきた、日はとっぷりと暮れ星も月も無い漆黒の闇に覆われてしまいそれでも足で探り探り木の階段を下った。女房に不安を感じさせないように手を取り会話を切らさずに進んだ。遭難の文字が頭をよぎったが遅くなくてもこの下った先には必ず山の鼻至仏山荘に辿り着けると、それと私たちの帰りが遅いことでキット迎えが来てくれることを信じて足を運んでいました。そんななかしばらく進むと下の方からかすかな明かりとオーイ、オーイと呼ぶ合う声が段々と近づくてきた、ホットするやらうれしやら胸が一杯になってしまった、こちらからも大声で叫び返したことは言うまでもない。懇親会の席を途中で私たちの救援に向かってくれたロータリアンの友情に涙が出た。一步間違えと遭難という危険をみんなで防いでいただいたのです。

ロータリアンの山の会であったことが私達にとって本当に大きな絆でしたしまた友情を肌身に感じたことでした。東クラブの寺島さん、石田さん、前橋クラブの坂内さんご夫妻はじめ多くのロータリアンの皆さんにあらためてお礼と感謝を申し上げます。翌日は快晴となり尾瀬ヶ原の秋の自然を満喫いたしました。

あの時からもう12年経ちましたが私たちにとってはまだ近々のことです。翌々年二人であの苦勞をした尾瀬沼に4回目の旅をしてきました。